徳島県の地震

令和4（2022）年11月

目　次

◎徳島県の地震活動
震央分布図・断面図 …… 1
概況 …… 1
徳島県で震度１以上を観測した地震の表 …… 2
震度分布図 …… 2

◎地震メモ
徳島県での過去の降灰と降灰予報 …… 3

＊「徳島県の地震」は月 1 回発行し、徳島県及びその周辺の地震活動状況をお知らせするとともに、適宜、社会的に関心の高い地震について解説を行っています。また、「地震メモ」で地震防災等の知識普及に努め、皆様のお役に立てることを目的としています。

＊本資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

＊本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

＊この資料に掲載した地図は、国土地理院の数値地図 25000（行政界・海岸線）を使用しています。

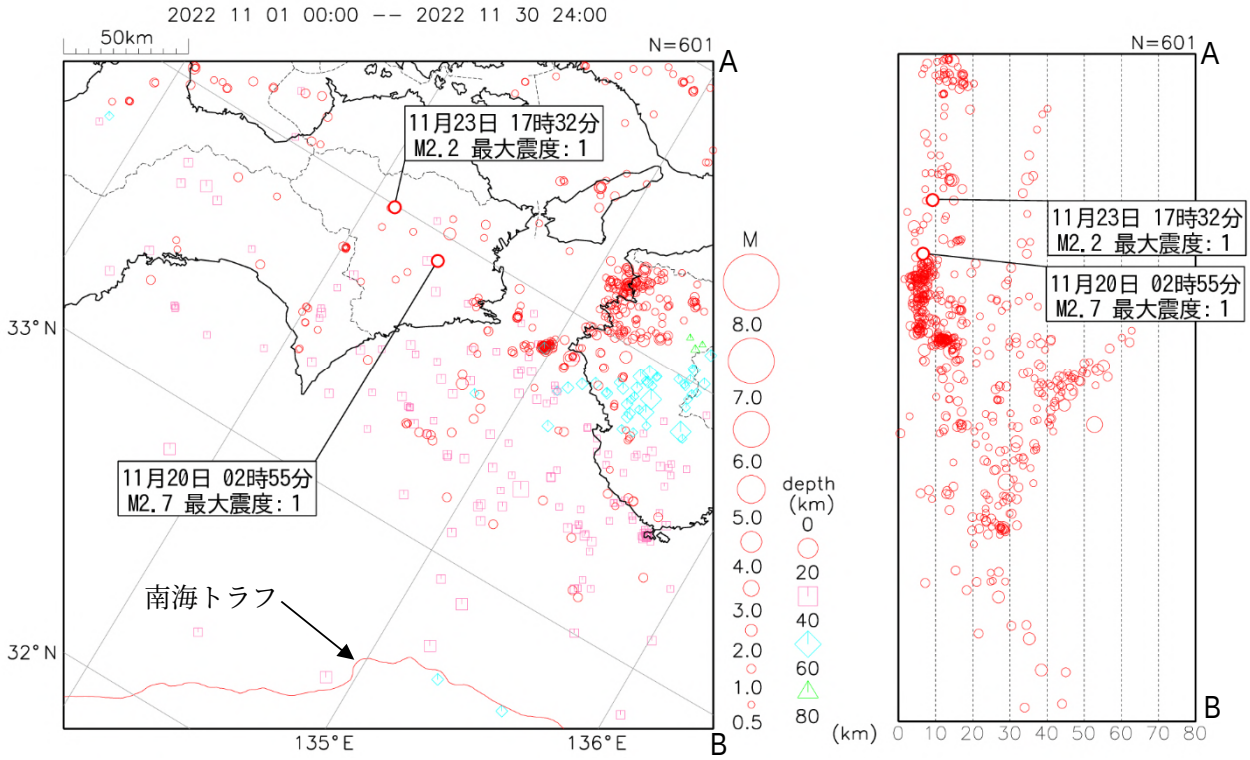
＊全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。
https://www.jma.go.jp/jma/menu/bunyaeq.html

＊大阪管区気象台管内（近畿、中国、四国地方）の地震活動は、大阪管区気象台ホームページに掲載の「管内地震活動図」、「週間地震概況」をご覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/kanindex.html

徳 島 地 方 気 象 台
(https://www.data.jma.go.jp/tokushima/)

徳島県の地震活動

震央分布図・断面図　2022 年 11 月 1 日～2022 年 11 月 30 日



震央分布図　　断面図

- M0.5 以上の地震を表示。
- 図に表示する震源は、凡例のとおりシンボルの大きさでマグニチュード（M）の大小を、シンボルの形状と色で震源の深さ（depth）（震央分布図のみ）を区分。図に表示している地震の回数（N）は震央分布図と断面図の右上に表示。
- 図中のコメントは、徳島県で震度 1 以上を観測した地震の発生日時・マグニチュード（M）、最大震度（徳島県内の最大震度とは限りません）。

概況

2022 年 11 月に徳島県で震度 1 以上を観測した地震は 2 回でした（前月は 1 回）。

20 日 02 時 55 分　徳島県南部の地震（深さ 7km、M2.7）により、美馬市・那賀町で震度 1 を観測しました。この地震は、地殻内で発生しました。

23 日 17 時 32 分　徳島県北部の地震（深さ 9km、M2.2）により、つるぎ町で震度 1 を観測しました。この地震は、地殻内で発生しました。

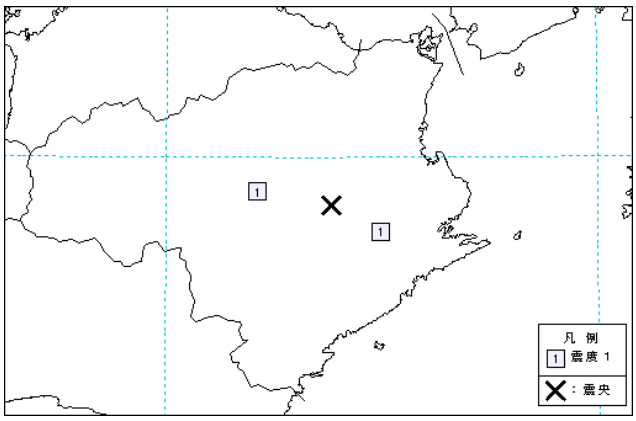
徳島県で震度１以上を観測した地震の表　　2022 年 11 月 1 日～2022 年 11 月 30 日

発震日（年月日時分）　震央地名 各地の震度（徳島県内のみ掲載）	緯　度	経　度	深さ	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2022 年 11 月 20 日 02 時 55 分　徳島県南部 震度　１：美馬市木屋平＊,那賀町和食＊	33°54.4' N	134°22.9' E	7km	M2.7
2022 年 11 月 23 日 17 時 32 分　徳島県北部 震度　１：つるぎ町半田＊	33°59.5' N	134°06.2' E	9km	M2.2

・　震源要素（緯度・経度・深さ・ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ）は暫定値。
・　地点名の後に＊がついている地点は、気象庁以外の観測点。

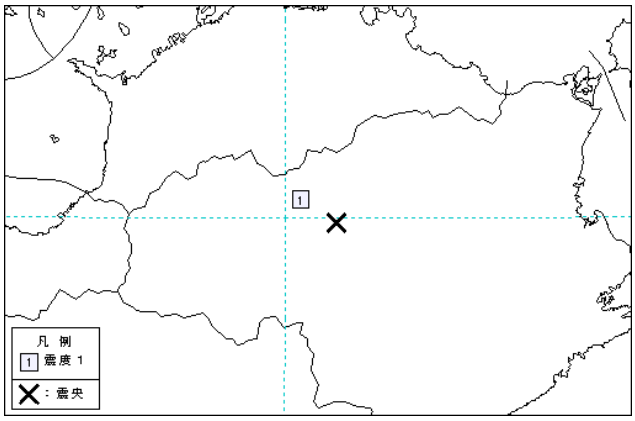
震度分布図（×印は震央）

11 月 20 日 02 時 55 分
徳島県南部の地震（深さ 7km、M2.7）



観測点別震度分布図

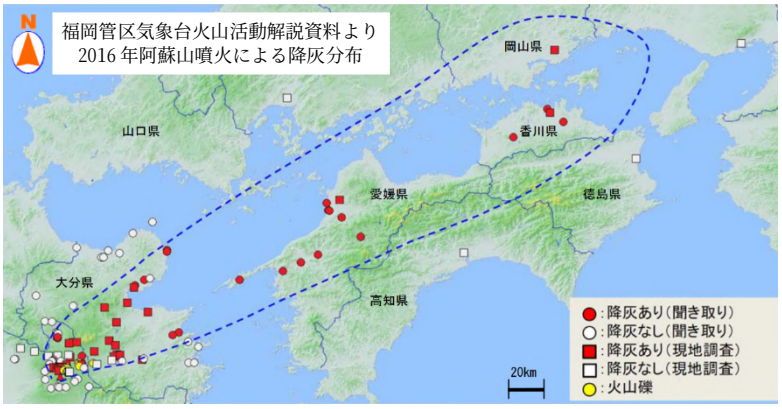
11 月 23 日 17 時 32 分
徳島県北部の地震（深さ 9km、M2.2）

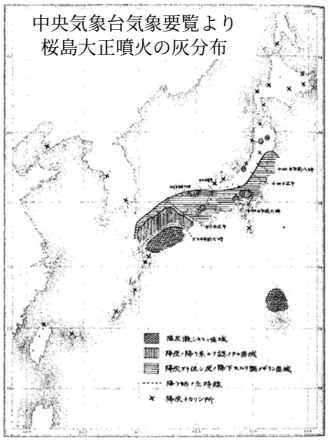


観測点別震度分布図

【地震メモ】徳島県での過去の降灰と降灰予報

四国には活火山はありませんが、九州には活火山があるため、まれに徳島県まで火山灰が到達することがあります。近年では 2016(平成 28)年 10 月 7 日から 8 日にかけて発生した阿蘇山の爆発的な噴火により海抜高度 11,000m まで噴煙がのぼり、上空の偏西風に乗って徳島県内でも火山灰が到達しています(福岡管区気象台火山活動解説資料 阿蘇山(2016 年)より)。



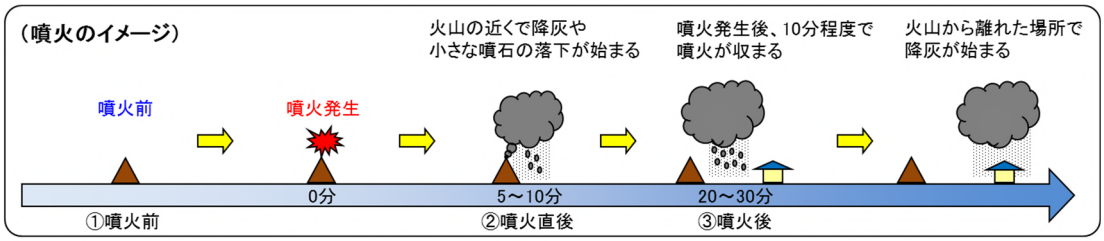


徳島県で過去に降灰があった記録が残っているのは、1914(大正３)年１月の桜島大正噴火で、降灰は東北地方や小笠原諸島まで及びました。徳島から熊本にかけては降灰が多く、１月 13 日は一日中火山灰による「煙霧」により視界が悪い状態が続きました(中央気象台要覧第 170 号より)。

火山灰はほんのわずかの量でも航空機の運航が停止し、降灰が 0.1㎜ 以上あれば農作物の収穫や道路・鉄道の運行などに影響を及ぼし、目や肺への健康被害も生じます。

気象庁では広範囲に降灰が予想される場合は降灰予報を発表し、降灰の恐れのある地域へ注意を呼びかけています。常時観測火山で噴火が確認されると、概ね ５～10 分で１時間程度先までの影響に関する噴火予報（速報）を発表し、続いて 20～30 分後を目途に噴火時刻や噴煙の高さから６時間先までの降灰量分布や降灰開始時刻を高精度で予測する噴火予報（詳細）を発表しています。

お住まいの地域に降灰予報が発表された場合は、予想時刻までに屋外の洗濯物など灰で汚れて困るものを片付け窓を閉めておきましょう。予想される降灰量がやや多量以上の場合は、なるべく外出をとりやめ車の運転を控えましょう。やむを得ず外出する場合は、マスクをして傘をさすなどして身を守り、帰宅する場合は衣服についた灰を念入りに振り落として入室するなど、屋内に灰を持ち込まないよう対策をしましょう。



①降灰予報(定時)

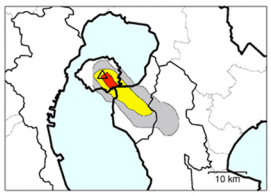
噴火の可能性が高い火山に対して、想定した噴煙高を用いて、18時間先までに噴火が発生した場合の降灰範囲や小さな噴石の落下範囲を計算し、定期的に発表します

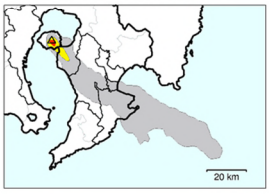
②降灰予報(速報)

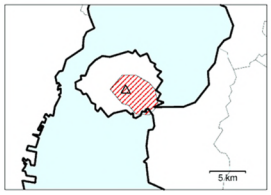
噴火発生直後、事前に計算した想定噴火のうち最も適当なものを抽出し、1時間以内の降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を、噴火後5～10分程度で速やかに発表します

③降灰予報(詳細)

噴火発生後、観測した噴煙高を用いて、精度の良い降灰量分布や降灰開始時刻を計算し、6時間先までの詳細な予報を、噴火後20～30分程度で発表します







●:多量の降灰範囲
●:やや多量の降灰範囲
●:少量の降灰範囲(①は降灰ありの範囲)
太線 :降灰が予想される市町村
●:小さな噴石の落下範囲